

何でも読もう会

書物名	『有難う』 川端康成	開催 日時	2023.12.4	出席者	8名
<p>川端の掌編小説集『掌の小説』の中の1篇。文庫本サイズで4ページのショート・ショート。小説というより詩、或いは散文詩に近い。</p> <p>或る南の港町から山を越えて北の町に娘を売りに行く母と娘、彼女らに乗せる乗合バスの運転手の3人だけの話。余計な説明を一切省き、そこは読者の想像と解釈に委ねて筆を進める。難解な言葉も一切ないし、娘を売らねばならない厳しい現実も生臭くなく淡々としている。始まりと終わりを同じ文章にして全体をまとめ上げ、バスの行きと帰りの描写も対称形にするなど、さすがにプロの作品である。</p> <p>この娘と運転手は一晩どうだったのか？ 運転手の年齢や家庭持ちか？など書かれていない部分に想像と議論が沸いた。</p>					